

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 11 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700103		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホーム宮内温泉ひまわり		
所在地	広島県廿日市市宮内字佐原田4215番地1 (電話)		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700103-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

現在はコロナ感染防止のため運営推進会議は法人内の職員での開催となっているが、以前は歯科医師や管理栄養士、理学療法士等による勉強会を行っていました。感染防止のため以前のように外出や外食が難しくなっておりますが、行事の際の行事食に力を入れたり、お弁当やお好み焼きを配達してもらい、入居者様に食の楽しみを感じて頂けるよう工夫しております。感染防止のため面会が難しくなっておりますが、窓越し面会の実施やオンライン面会の体制整備等、できる限りご家族等と接して頂けるよう対応しております。日常生活では食事作りや洗濯たたみ、掃除などできることをしていただき、ご自宅での生活に近い状態で生活されている方もおられます。併設の病院とも連携し、入居者様、ご家族様より希望があれば、看取りまでの対応ができる体制も整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所における最近の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化が見られる。事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが現在のコロナ禍による面会制限下、家族の要望に基づき昨年6月から面会が制限付きで再開となり更に事業所がタブレットを導入してのオンライン面会やガラス越しで携帯電話を介した面会、又先月から居室にて短時間の衣替え・整理も可能になる等、感染状況に即応しつつ利用者・家族の思いに寄り添った支援をしている。第二に「理念の共有と実践」に深化が見られる。事業所は職員意見を集約し法人サービス向上委員会が策定した事業所毎の半期目標と事業所理念を実践上の原点として位置付け、朝礼で唱和・共有すると共に実践に向けた基本方針の中から当日取り組むべき項目も決めている。更に各職員も半期毎の個人目標を策定し個人面談で理念の達成度を検証している。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	月1回の法人の朝礼で法人の理念の唱和をしている。ホームでは毎朝ホームの理念と目標の唱和を行い、職員全員で共有して声を掛け合いながら実践に繋げている。6カ月に1回目標について評価を行い、再度目標の設定を行っている。	職員意見を集約し法人サービス向上委員会が策定した事業所毎の半期目標と事業所理念を実践上の原点と位置付け朝礼で唱和している。更に実践に向けた基本方針の中から当日取り組むべき項目も決めている。又職員も半期毎の個人目標を策定し個人面談で理念の達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在はコロナ感染防止のため買い物や外出が出来ていないが、月に数回併設老健へ出張理容で入っている地域の理・美容院を使ったり、地域の歯科医院からの訪問、地域の農家からお米を購入して届けてもらったりしている。地域の民生委員の方へ運営推進会議開催の時に意見を頂いたりしている。	現在はコロナ禍により近隣散歩等以外は自粛中だが、本来は日頃から買い物や地域行事にも参加している。法人の健康フェア等に地域住民やボランティアを受け入れる相互交流や地域の保育園児と世代間交流もあった。今は地域の美容院・歯科・農家・看護実習生等の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に1回健康フェアがあり、地元の方に参加して頂いていたが、コロナ感染予防のため延期となっている。法人として認知症カフェを定期的に開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ感染対策ため法人内職員のみでの開催となっているが、ご家族に対して面会時や電話で意見や話し合っしてほしいこと等を伺っている。民生委員や高齢介護課へも意見を伺い、意見があれば会議で検討をし、報告するようにしている。	コロナ禍のため昨年2月は家族、10月は家族・地域包括支援センター職員・民生委員の参加を得た以外は、職員のみで開催となっている。関係者との情報共有のため議事録を送付し、直近3回は民生委員等から意見の発信があった。家族の意見から面会の拡大に繋がっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議開催のお知らせを行い、意見を伺っている。開催後は議事録の提出により報告をしている。地域の民生委員にも開催のお知らせをして意見をいただき、時にはホームへ訪ねてきてくださることもある。	市高齢介護課職員と運営推進会議の事前照会（配布の会議資料）で情報を共有している。又、市から委託を受けた法人の支援チームが系列施設で開く認知症カフェに協力している。市町担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の集団指導研修会へのオンライン参加等で関係構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠せず、ドアのセンサーを設置する等して職員が常に注意している。法人内の研修やホームでの勉強会により、常に職員が身体拘束をしないケアについて意識できる体制を築いている。新しく入職した職員に対しても身体拘束をしないケアについて指導をしている。	法人の毎月の身体拘束対策委員会に参加する管理者や法人・事業所の研修を通し職員は「拘束をしない」必要性を認識し実践を重ねている。拘束について職員同士の申し送りノートで共有し新人指導も行っている。運営推進会議の中で拘束状況を公開し、玄関の施錠はしておらずセンサー対応である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年法人内で研修を実施しており、ホーム内でも勉強会を開いている。それにより高齢者虐待防止法の理解や高齢者虐待に対する考え方など虐待防止について継続的に学べるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要時にはパンフレットを用いるなどして説明して活用できるようにしている。2021年9月より入居された方が成年後見制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	法人在宅事業部、グループホーム管理者が十分な説明を行い、理解・納得して頂けるようにしている。改定時には運営推進会議で説明をしたり、文書にて説明と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームの玄関や併設病院の受付等に意見箱を設置している。コロナ感染予防のため運営推進会議へのご家族の参加や、家族会の開催ができていないため、ご家族同士の意見交換の場の設置ができていない。面会時に声をかけた電話をしたりし、相談しやすい環境づくりに努めている。	現在はコロナ禍で面会自粛だが、家族とは電話連絡・介護計画更新時・事業所での窓越し面会等で意見・要望を把握し迅速な対応に努めている。以前は年1回の家族会や運営推進会議もその機会であった。家族の要望で面会も拡大し、10月から居室にて短時間の衣替え・整理も可能になった。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼や終礼、カンファレンスや、日ごろから話しやすいような声かけを心掛け、職員が意見を出しやすい環境づくりに努めている。出た意見について上司へ伝えて検討したりしている。	適宜の職員会議・申し送り・管理者他との2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員提案により、新型コロナ助成金を活用した大画面テレビの購入や職員専用の休憩室・テラスに日除けネットの設置等の例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働き方改革に則って、就業環境の整備をしている。人事考課制度の見直しをしており、向上心を持って働ける職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外でレベルアップのための研修を受ける機会がある。コロナ感染予防のため外部研修への参加機会が減っているが、オンライン研修を活用してできるだけ参加できるようにしている。職員の力量により、適切な研修に参加できるよう意識している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2カ月に1度、法人内のグループホーム(6か所)でのホーム長会議で意見交換を行い、情報の共有を図ったり行事の工夫など質の向上に努めている。職員研修をしてサービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	最初にご本人、ご家族から困っていることや不安に思っていることを、面談や訪問時に確認するようにしている。入居後もご本人の様子や言動に気を付け、不安に思っていることや困っていることはいないか聞くようにし、不安なく安心して生活して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。	サービス開始するにあたって事前に自宅へ訪問し、ご本人やご家族が不安に感じていることや希望などを確認し、入居時から安心して頂けるよう努め、より良い関係が気付けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを開始するにあたって、今何を必要としていて、どのような日常生活を送っていきたいかご本人やご家族から聞き取るようにしている。その希望を取り入れるためにどのようなことが必要なのかをしっかりと考え、より良い支援やサービスが提供できるよう努めている。希望を勘案し、リハビリ等にも繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個人の特徴や性格を把握し、1人1人に合ったことをしていただけるように努めている。また、コミュニケーションがとれる時間はしっかりと、その人との信頼関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話時を利用し、ご家族に近況報告をしている。面会になかなか来ることができないご家族についても安心して頂きながら、お互いに支え合う関係が築けるよう努めている。つながりを持てる場の確保のため、リモート面会を実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている。	コロナ感染予防のため居室での面会をすることはできないが、窓越しで面会できるようにしている。リモート面会も含め、これまでの人間関係を継続できるよう努めている。	コロナ禍による面会制限の中、昨年6月頃から制限付きで再開となり、ガラス越し面会・オンライン面会、先月から居室にて短時間の衣替え・整理も可能になる等、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援をしている。年賀状・携帯電話を介した会話等、馴染みの関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活の中で入居者同士の関係を把握した上で、トラブルのないよう良い関係づくりができるよう工夫している。行事等の場に応じて時には職員が間に入り、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等で契約が終了した時でも面会に行ったり、家族からの相談があれば速やかに対応している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の状況を把握し、本人のペースに合わせて安全に配慮しつつ、丁寧なケアを心掛けている。ケアプラン見直し時には入居者や家族の要望を把握し、検討計画している。状態に変化があればその都度検討している。	利用者毎に担当を決め、利用者の習慣や好み等の基本情報を基にその後はその方に深く関わりを持つことで思いを汲み取り、職員は申し送りノート等で共有をしている。認知機能の低下のため役割の持続が困難な方には出来る事を探りながら尊厳に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居される前にご本人やご家族から聞き取りを行い、事前にフェースシートを作成し、職員に周知している。フェースシートを参考にしながらご本人と接し、日常の会話の中から様々なことを引き出せるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	コミュニケーションを円滑に取ると同時に毎日バイタルチェックを行い、体調や心身状態の把握をしている。歩行時や排泄時、入浴時の関わり等から有する能力の把握に努めている。また、家事や作業、体操やリハビリ等でも現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時、入居者の想いや意向、状況を把握し、家族の要望も確認して暮らしやすい環境の中で生活できるように、意見を出し合ってケアプランを作成している。3カ月ごと、もしくは状態に変化があった時にモニタリングを行い、意向を確認しながらカンファレンスにて計画の確認をしている。</p>	<p>本人や家族の意向を事前に確認し計画原案を定期的に担当者会議で検討し家族の同意を得て本案としている。3ヶ月を基本にモニタリングの集約・計画見直しを実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに基づいたケアの実践に努め、日々の生活記録をカルテに記入し、施設で共有しているノートも使いながら申し送り等で職員間で情報共有し、創意工夫を心掛け改善や見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>訪問看護、訪問歯科、管理栄養士による栄養指導、リハビリ専門職による指導等取り入れ、その時のニーズに対応できるように支援やサービスに取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の理美容院の利用や法人内の催しへの参加、コロナ禍以前はボランティアの方に来て頂いたりしてメリハリのある生活を送って頂けるように支援している。お米を地域から購入したり野菜をわけてもらったりと地域の方と繋がりをもちながら施設運営を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>併設の病院へ定期的を受診し、異常があれば随時にご家族へ連絡しており、希望時には病状説明の場を設けている。協力医療機関への受診については職員が付き添っている。</p>	<p>利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は併設の協力医療機関に月1回の定期受診をし、協力歯科医からは月1回の訪問診療もある。専門医の受診は家族の協力も得ながら行われ、法人系列の訪問看護・外来看護・事業所看護師からも利用者の健康管理について支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>夜勤者からの申し送りや毎日のバイタル測定、様子観察の中で変化があれば職場内の看護師や訪問看護師などに伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはホームでの生活や好みや習慣等できる限り病院担当者へ伝え、時には食事形態についての相談等を受けることもある。入院中に病院へ訪問したり、ご家族へも連絡をしたりして連携をとっている。また、退院後は病院からの訪問指導をうけ、医療機関との連携に勤めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した場合に関する指針について説明しており、重度化が見られた場合には担当者より家族に説明を行い、今後の方針や以降の確認をしている。それを基に想いに沿った支援ができるよう、併設病院等からの協力を得ながらチームで取り組んでいる。</p>	<p>要望があれば看取りを行なう方針である。契約時に「重度化した場合・看取りに関する指針」で説明・了解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、指針に基づき適切な支援を行う方針である。現管理者下ではまだないが、年に数件の看取りがある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>院内研修や勉強会にて急変時や事故発生時の対応を学んでいる。事故発生時には報告書を作成して他の職員と内容を共有し、対策について検討して再発防止を図っている。目につきやすい場所にマニュアルを設置し、周知している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>防災委員を中心に月に1回様々な災害を想定した訓練を利用者と共に行い、内容について検証している。年に2回防災訓練の報告を消防署へ提出している。コロナ禍以前は地域住民と一緒に参加する法人全体での防災訓練を実施しており、今後可能になれば実施していく。</p>	<p>消防署指導の下、併設医療法人と合同で年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施する他、併設小規模多機能型居宅介護事業所と合同で毎月自主訓練も実施している。事業所は河川氾濫による浸水想定区域に隣接し、併設医療法人は地域における災害時相互救援活動協定施設にも指定されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別性を重視し、自由に生活して頂き、自室におられる時は扉を閉めて過ごされる方もおられ、定期的に訪室して見守りや声かけをしている。排泄時の介助については声かけの声の大きさに気を付ける等、プライバシーを意識した介護を心掛けている。敬意を持って接するよう、職員同士が声を掛け合って意識している。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制をとっている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応には指導や気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気もある。情報システムも個人情報扱う業務系は外部インターネットとは繋がらないように設定されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日ごろから側に寄り添ってしっかり話をし、何をしたいのか、何を食べたいのか聞いたりして把握に努めている。自己決定の難しい方についても生活歴や性格等から想像し、できる限りその時に意志を掴むようにして少しでも本人の意思に近い支援が提供できるよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	バイタル測定や表情、会話の内容等によりその日の体調を把握し、希望に添えるように「お茶にしませんか?」「リビングに行きませんか?」等都度確認し、無理が無いよう本人のペースに併せて対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時は自室の洗面所にて洗面、整容をされ、好みの化粧水や美容液を使用されている。入浴の時は話をしながら洋服選びができるように努めている。散髪は併設の施設に理美容院が出張で来るので定期的に通い、希望があれば地域の理美容院へ出かけることもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	四季折々の旬のものを感じていただけるよう、行事などを通して食事を工夫している。可能な方には食事の準備や片付けの手伝いをしていただき、野菜の収穫も一緒にしている。日ごろの会話の中で好みのものを把握し、それをお出ししたりしている。	毎日の献立は季節や食材を勘案し職員による三食手作りである。誕生日には好みの寿司等を提供し、菜園から採れた野菜が食卓に上がったり、お好み焼きの出前、おはぎ等のおやつ作りやテラスでの茶会等、楽しみとなる工夫をしている。利用者は役割に応じた片付け等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食食事量を記録し、量や形態、食器などをその方に合わせ、栄養をバランスよく摂取して頂けるようにしている。月1回体重測定を行って一人一人の状態を把握し、必要があれば職員で検討して栄養状態の改善が図れるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後声かけをし、その方に合った方法で口腔ケアの支援をしている。歯科医師が来られ、口腔ケア等についての指示や、指導を職員に対して行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ひとりひとりの排泄について記録することで排泄パターンを掴み、それを基にトイレ誘導を行うことでトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間もそれぞれの方のリズムに合わせて支援している。</p>	<p>排泄管理表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。骨折術後退院時の紙おむつから紙パンツでトイレ誘導が可能となった例や前方支持テーブルを設置し、それに寄りかかり腹部に力を入れ自力で排便し易くする環境整備例等、状態像に合わせた自立支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便の確認を行い、便秘気味の時には牛乳を飲んでいただく等水分摂取量や食事面にも配慮している。毎日廊下歩行や体操など身体を動かすように働きかけ、便秘の予防に努めている。必要な方は医師の指示にて下剤で調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は決めていないが、週に2～3回は入浴して頂けるよう声かけをしている。拒否される方に対しては無理はせず、声かけする職員を代えたり、時間をあけたり、別の日に様子を見ながら声をかけて入って頂いている。入浴を希望された時に予定が入っている場合、予定を変更してできる限り対応している。</p>	<p>週2～3回の午前浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮し、シャワー浴や足浴で対応することもある。据え置き式家庭浴槽のお湯には温泉成分も含まれ、冬至の柚子湯や湯上りの保湿剤等も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>ひとりひとりの生活リズムを大 切にし、寝具も季節や室温、体 調などを考慮して整えている。 個々の体力に合わせて休息時 間を持てるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>個人の薬表を作成し、効能、副 作用、用法など職員全員が把握 できるようにしている。服薬後 の変化を観察して記録に残し、 職員で状態を共有するように している。必要時には話し合い の場で検討したり、医師に報告 している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>今までの生活歴、好み、趣味な どを把握し、台所仕事や洗濯も のたたみ、掃除など可能な限り 役割を持っていただくように している。花の世話、ゲーム、 計算など個々の興味のあるこ とを提供できるよう努めている。 また、みんなで歌を歌ったり 体操をしたり、作業などをする ことで笑顔を引き出せるよう 支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	<p>以前はドライブや外食等外出し ていたが、コロナ感染予防の ため難しくなっている。その 中で庭で育てている花や野菜 の世話をしたり、景色を見たり 、テラスでお茶をしたりと外 の空気に触れて頂けるように している。</p>	<p>コロナ禍で外出は当面の間自 粛をしているが、天候が良け れば隣接施設側の花見散歩や テラスでの茶会、季節行事と して紅葉狩り等のドライブを 適宜行っている。又、法人系 列のアートギャラリーに利用 者が作った展示作品を見学に 行く等、普段は行けないよう な場所に行けるよう支援して いる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>希望がある時はご家族に相談 し、お金を持って頂いている。 現在はコロナ感染予防のため 買い物に出かけられないこと もあり、金銭を所持されてい る方はおられない。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話でご家族へ連絡を取ったりしており、個人で携帯電話を持たれている方もいる。入居者様から手紙を送ることはないが、ご家族から届いた手紙を喜ばれている方もいる。希望があればはがきを準備して出させていただくこともできるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日洗面台や部屋を掃除しており、中には職員と一緒に掃除をされる方もいる。館内の温度や湿度、換気や調光等に配慮している。壁などには入居者様が作成された作品を貼ったり、季節を感じていただける飾りつけをしている。	テラスを活用したプランター花壇・野菜やメダカの飼育、裏庭には実のなる木を植えたり、利用者とする季節行事の飾り付けや七夕では着付け教室で装った利用者の浴衣姿等で季節感をとり入れている。又、白内障の利用者も多く、最近テラスに日除けネットを設置した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやテレビ、新聞や本などを置き、一人一人が好きな時間を過ごしていただけるようにしている。テラスに出て過ごせるようにもしており、気分転換をしていただけるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人の部屋にはその方が自宅で使われていたなじみのものや家具を置くことで、なるべく昔住んでいた家に近づけるようにしている。また、ご家族の写真を置いている方もおり、それを見ながらご家族の話をしたりしている。職員も一緒に部屋の整理整頓を行い、快適に過ごせるよう支援している。	居室にはベッド・クローゼット・洗面所等が備え付けられ、仏壇・テレビ等、使い慣れた物や家族写真・折り紙作品等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレや赤外線離床センサーを設置する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりが設置され、転倒予防とともに一人一人の力を活かせるようにしています。入居者様の残存機能を大切に、できることはなるべくして頂けるよう声かけをしたり、出来る環境づくりに努めています。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	月1回の法人の朝礼で法人の理念の唱和をしている。ホームでは毎朝ホームの理念と目標の唱和を行い、職員全員で共有して声を掛け合いながら実践に繋げている。6カ月に1回目標について評価を行い、再度目標の設定を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在はコロナ感染防止のため買い物や外出が出来ていないが、月に数回併設老健へ出張理容で入っている地域の理・美容院を使ったり、地域の歯科医院からの訪問、地域の農家からお米を購入して届けてもらったりしている。地域の民生委員の方へ運営推進会議開催の時に意見を頂いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に1回健康フェアがあり、地元の方に参加して頂いていたが、コロナ感染予防のため延期となっている。法人として認知症カフェを定期的に開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ感染対策ため法人内職員のみでの開催となっているが、ご家族に対して面会時や電話で意見や話し合っしてほしいこと等を伺っている。民生委員や高齢介護課へも意見を伺い、意見があれば会議で検討をし、報告するようにしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議開催のお知らせを行い、意見を伺っている。開催後は議事録の提出により報告をしている。地域の民生委員にも開催のお知らせをして意見をいただき、時にはホームへ訪ねてきてくださることもある。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠せず、ドアのセンサーを設置する等して職員が常に注意している。法人内の研修やホームでの勉強会により、常に職員が身体拘束をしないケアについて意識できる体制を築いている。新しく入職した職員に対しても身体拘束をしないケアについて指導をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年法人内で研修を実施しており、ホーム内でも勉強会を開いている。それにより高齢者虐待防止法の理解や高齢者虐待に対する考え方など虐待防止について継続的に学べるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要時にはパンフレットを用いるなどして説明して活用できるようにしている。2021年9月より入居された方が成年後見制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	法人在宅事業部、グループホーム管理者が十分な説明を行い、理解・納得して頂けるようにしている。改定時には運営推進会議で説明をしたり、文書にて説明と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームの玄関や併設病院の受付等に意見箱を設置している。コロナ感染予防のため運営推進会議へのご家族の参加や、家族会の開催ができていないため、ご家族同士の意見交換の場の設置ができていない。面会時に声をかけたり電話をしたりし、相談しやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼や終礼、カンファレンスや、日ごろから話しやすいような声かけを心掛け、職員が意見を出しやすい環境づくりに努めている。出た意見について上司へ伝えて検討したりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働き方改革に則って、就業環境の整備をしている。人事考課制度の見直しをしており、向上心を持って働ける職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外でレベルアップのための研修を受ける機会がある。コロナ感染予防のため外部研修への参加機会が減っているが、オンライン研修を活用してできるだけ参加できるようにしている。職員の力量により、適切な研修に参加できるよう意識している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2カ月に1度、法人内のグループホーム(6か所)でのホーム長会議で意見交換を行い、情報の共有を図ったり行事の工夫など質の向上に努めている。職員研修をしてサービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	最初にご本人、ご家族から困っていることや不安に思っていることを、面談や訪問時に確認するようにしている。入居後もご本人の様子や言動に気を付け、不安に思っていることや困っていることはないか聞くようにし、不安なく安心して生活して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	サービス開始するにあたって事前に自宅へ訪問し、ご本人やご家族が不安に感じていることや希望などを確認し、入居時から安心して頂けるよう努め、より良い関係が気付けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを開始するにあたって、今何を必要としていて、どのような日常生活を送っていきたいかご本人やご家族から聞き取るようにしている。その希望を取り入れるためにどのようなことが必要なかをしっかり考え、より良い支援やサービスが提供できるよう努めている。希望を勘案し、リハビリ等にも繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個人の特徴や性格を把握し、1人1人に合ったことをしていただけるように努めている。また、コミュニケーションがとれる時間はしっかりと、その人との信頼関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話時を利用し、ご家族に近況報告をしている。面会になかなか来ることができないご家族についても安心して頂きながら、お互いに支え合う関係が築けるよう努めている。つながりを持てる場の確保のため、リモート面会を実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染予防のため居室での面会をすることはできないが、窓越しで面会できるようにしている。リモート面会も含め、これまでの人間関係を継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活の中で入居者同士の関係を把握した上で、トラブルのないよう良い関係づくりができるよう工夫している。行事等の場に応じて時には職員が間に入り、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等で契約が終了した時でも面会に行ったり、家族からの相談があれば速やかに対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の状況を把握し、本人のペースに合わせて安全に配慮しつつ、丁寧なケアを心掛けている。ケアプラン見直し時には入居者や家族の要望を把握し、検討計画している。状態に変化があればその都度検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居される前にご本人やご家族から聞き取りを行い、事前にフェースシートを作成し、職員に周知している。フェースシートを参考にしながらご本人と接し、日常の会話の中から様々なことを引き出せるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	コミュニケーションを円滑にとると同時に毎日バイタルチェックを行い、体調や心身状態の把握をしている。歩行時や排泄時、入浴時の関わり等から有する能力の把握に努めている。また、家事や作業、体操やリハビリ等でも現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時、入居者の想いや意向、状況を把握し、家族の要望も確認して暮らしやすい環境の中で生活できるように、意見を出し合ってケアプランを作成している。3カ月ごと、もしくは状態に変化があった時にモニタリングを行い、意向を確認しながらカンファレンスにて計画の確認をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づいたケアの実践に努め、日々の生活記録をカルテに記入し、施設で共有しているノートも使いながら申し送り等で職員間で情報共有し、創意工夫を心掛け改善や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問看護、訪問歯科、管理栄養士による栄養指導、リハビリ専門職による指導等取り入れ、その時のニーズに対応できるように支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の理美容院の利用や法人内の催しへの参加、コロナ禍以前はボランティアの方に来て頂いたりしてメリハリのある生活を送って頂けるように支援している。お米を地域から購入したり野菜をわけてもらったりと地域の方と繋がりをもちながら施設運営を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	併設の病院へ定期的に受信し、異常があれば随時に受診してご家族へ連絡しており、希望時には病状説明の場を設けている。協力医療機関への受診については職員が付き添っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	夜勤者からの申し送りや毎日のバイタル測定、様子観察の中で変化があれば職場内の看護師や訪問看護師などに伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活や好みや習慣等できる限り病院担当者へ伝え、時には食事形態についての相談等を受けることもある。入院中に病院へ訪問したり、ご家族へも連絡をしたりして連携をとっている。また、退院後は病院からの訪問指導を受け、医療機関との連携に勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合に関する指針について説明しており、重度化が見られた場合には担当者より家族に説明を行い、今後の方針や以降の確認をしている。それを基に想いに沿った支援ができるよう、併設病院等からの協力を得ながらチームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	院内研修や勉強会にて急変時や事故発生時の対応を学んでいる。事故発生時には報告書を作成して他の職員と内容を共有し、対策について検討して再発防止を図っている。目につきやすい場所にマニュアルを設置し、周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災委員を中心に月に1回様々な災害を想定した訓練を利用者と共に行い、内容について検証している。年に2回防災訓練の報告を消防署へ提出している。コロナ禍以前は地域住民と一緒に参加する法人全体での防災訓練を実施しており、今後可能になれば実施していく。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別性を重視し、自由に生活して頂き、自室におられる時は扉を閉めて過ごされる方もおられ、定期的に訪室して見守りや声かけをしている。排泄時の介助については声かけの声の大きさに気を付ける等、プライバシーを意識した介護を心掛けている。敬意を持って接するよう、職員同士が声を掛け合って意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日ごろから側に寄り添ってしっかり話をし、何をしたいのか、何を食べたいのか聞いたりして把握に努めている。自己決定の難しい方についても生活歴や性格等から想像し、できる限りその時に意志を掴むようにして少しでも本人の意思に近い支援が提供できるよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	バイタル測定や表情、会話の内容等によりその日の体調を把握し、希望に添えるように「お茶にしませんか?」「リビングに行きませんか?」等都度確認し、無理が無いよう本人のペースに併せて対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時は自室の洗面所にて洗面、整容をされ、好みの化粧水や美容液を使用されている。入浴の時は話をしながら洋服選びができるように努めている。散髪は併設の施設に理美容院が出張で来るので定期的に通い、希望があれば地域の理美容院へ出かけることもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	四季折々の旬のものを感じていただけるよう、行事などを通して食事を工夫している。可能な方には食事の準備や片付けの手伝いをしていただき、野菜の収穫も一緒にしている。日ごろの会話の中で好みのものを把握し、それをお出ししたりしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食食事量を記録し、量や形態、食器などをその方に合わせ、栄養をバランスよく摂取して頂けるようにしている。月1回体重測定を行って一人一人の状態を把握し、必要があれば職員で検討して栄養状態の改善が図れるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後声かけをし、その方に合った方法で口腔ケアの支援をしている。歯科医師が来られ、口腔ケア等についての指示や、指導を職員に対して行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ひとりひとりの排泄について記録することで排泄パターンを掴み、それを基にトイレ誘導を行うことでトイレで排泄ができるよう支援している。夜間もそれぞれの方のリズムに合わせて支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便の確認を行い、便秘気味の時には牛乳を飲んでいただく等水分摂取量や食事面にも配慮している。毎日廊下歩行や体操など身体を動かすように働きかけ、便秘の予防に努めている。必要な方は医師の指示にて下剤で調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は決めていないが、週に2~3回は入浴して頂けるよう声かけをしている。拒否される方に対しては無理はせず、声かけする職員を代えたり、時間をあけたり、別の日に様子を見ながら声をかけて入って頂いている。入浴を希望された時に予定が入っている場合、予定を変更してできる限り対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ひとりひとりの生活リズムを大切に、寝具も季節や室温、体調などを考慮して整えている。個々の体力に合わせて休息時間を持てるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の薬表を作成し、効能、副作用、用法など職員全員が把握できるようにしている。服薬後の変化を観察して記録に残し、職員で状態を共有するようにしている。必要時には話し合いの場で検討したり、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの生活歴、好み、趣味などを把握し、台所仕事や洗濯ものたたみ、掃除など可能な限り役割を持っていただくようにしている。花の世話、ゲーム、計算など個々の興味のあることを提供できるよう努めている。また、みんなで歌を歌ったり体操をしたり、作業などをすることで笑顔を引き出せるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	以前はドライブや外食等外出していたが、コロナ感染予防のため難しくなっている。その中で庭で育てている花や野菜の世話をしたり、景色を見たり、テラスでお茶をしたりと外の空気に触れて頂けるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望がある時はご家族に相談し、お金を持って頂いている。現在はコロナ感染予防のため買い物に出かけられないこともあり、金銭を所持されている方はおられない。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話でご家族へ連絡を取ったりしており、個人で携帯電話を持たれている方もいる。入居者様から手紙を送ることはないが、ご家族から届いた手紙を喜ばれている方もいる。希望があればはがきを準備して出させていただくこともできるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日洗面台や部屋を掃除しており、中には職員と一緒に掃除をされる方もいる。管内の温度や湿度、換気や調光等に配慮している。壁などには入居者様が作成された作品を貼ったり、季節を感じていただける飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやテレビ、新聞や本などを置き、一人一人が好きな時間を過ごしていただけるようにしている。テラスに出て過ごせるようにもしており、気分転換をしていただけるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人の部屋にはその方が自宅で使われていたなじみのものや家具を置くことで、なるべく昔住んでいた家に近づけるようにしている。また、ご家族の写真を置いている方もおり、それを見ながらご家族の話をしたりしている。職員も一緒に部屋の整理整頓を行い、快適に過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりが設置され、転倒予防とともに一人一人の力を活かせるようにしています。入居者様の残存機能を大切に、できることはなるべくして頂けるよう声かけをしたり、出来る環境づくりに努めています。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム宮内温泉ひまわり

作成日 令和4年1月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	コロナ禍のため外出支援が出来ていない。	車椅子の方も含め全員が外出できる。	・車の確保。 ・車椅子の方も楽しめる外出プランの立案。 ・密にならないよう、少人数での外出にする。	6か月
2	51	コロナ禍のためホーム内で過ごすことが多く、ご家族へ生活の様子が伝えられていない。	月1回の手紙の作成。	・担当職員から発送。 ・担当者が写真を撮り、各職員が協力して月に1回ご家族へ生活の様子を報告する。	12カ月
3	12	看取りに向けた方針の共有。	職員全員が看取りの方針を正確に理解し、適切な対応ができるようになる。	・看取りの勉強会の開催。 ・新人等に対して経験のある職員から指導やアドバイスを行う。	6か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。